

桜蔭俳話会 三月句会(第二八四回) 於桜蔭会館

平成二十二年三月二十八日

- 3点 遠眼にもハイタッチせり合格ぞ 貞勝
春の陽に明治のガラス御用邸 幸
- 2点② 卒寿過ぐ母にたのみて雛飾る 友子
- 2点 耕耘機大地の眠り覚ましゆく 貞勝
花ミモザ心躍りて向かふ画布 ヤエ子
朴芽吹き中仙道のコーヒー店 幸
顔洗ふ猫に間近の露の臺 友子
どの家もひと減るばかり葱坊主 秀一
ゆつたりと春光巻き込む浜風車 ヤエ子
青空のすみずみ動く木の芽時 貞勝
童らは浅瀬を駆ける目借時 ヤエ子
初桜風ののこりし坂の上 秀一
- 1点① 朝さくら祝辞を渡ふ妻のこゑ 秀一
雌を呼ぶ鳴き声低し山蛙 友子
亀鳴くやマニアレストてふ空手形 貞勝
- 1点 花辛夷朝ピカピカの人力車 貞勝
諸葛菜あらぬ方にも花の陣 秀一
公園に親子づれふえ春きたる 眞三
花エリカふつくら脹らむ稚の頬 ヤエ子
国さかひは細き野道よこぶし照る 友子
- ※ 亀鳴いて聞かでよいこと知りにけり 秀一
歩を休め谷の梅林一望す 眞三
たわむれる犬と男の子や土筆生ゆ 友子
無雑作に花を持ちたり彼岸道 ヤエ子
吹き止まぬ笛はつしやる雛納め 幸
あの時が別れ春の計の知らせ 幸
庭手入沈丁の香の送りくる 眞三

○ 不在投句 (野上貞勝)

○ 新入会員 藤本友子さん